

アイヌタイムズ 第58号 日本語版

★ 風疹のお話

風疹とは、どのような病気なのかを知っていますか？

子供の頃にかかった、という人も多いかもしれませんね。風疹という病気の元は風疹ウイルスといわれる病気の神です。発疹が出ます。何回か咳をすると、病気がうつりやすくなります。発疹より2～3日前から、病気がうつりやすくなります。発疹が出てから5日くらいまで病気がうつりやすくなります。風疹より、麻疹(はしか)や水疱瘡(みずぼうそう)の方がうつりやすいです。インフルエンザより、風疹の方がうつりやすいです。37度ほどの熱が出たり、リンパ節が腫れたりすることがあります。

ウイルスに感染しても症状が出ないまま、免疫ができてしまう人が15～30%ほどいるようです(不顕性感染)。流行は春先から初夏にかけてが多い、と言われていますが、冬にも少なからず患者さんがいます。風疹は、麻疹(はしか)と似ているため、「3日ばしか」とも呼ばれています。

4～10歳の子供に多く罹り、ふつうは悪くはなりません。しかし、ごくたまに脳炎や血小板減少性紫斑病という合併症に罹ります。2000人から5000人のうち1人くらい、合併症に罹ります。

風疹に罹ると、子供より大人の方が悪くなり、発熱や発疹の期間が長く、関節痛もひどいことが多いです。また、免疫のない女性が妊娠初期に風疹にかかると、風疹ウイルスが胎児に感染して、出生児に先天性心疾患、難聴、白内障などの障がいを引き起こすことが

あります(先天性風疹症候群)。妊娠初期3カ月以内に感染すると、先天性心疾患と白内障が発生することがあります。難聴は6カ月以内の感染で出現します。しかも、高度難聴であることが多いです。これ以外には、網膜症、肝脾腫、血小板減少、糖尿病、発育遅滞、精神発達遅滞、小眼球などがあります。

風疹は近畿、首都圏などで流行が続き、本道でも患者がいます。札幌、函館で多いですが、地域にも広がっています。今年の6月9日までに、北海道では82人の患者がありました。成人が多くなっています。全国では、10102人です。昨年は、全国で2353人、北海道で21人でした。今年の82名の患者のうち、男性は55名で、女性は27名でした。

全国の10102名の患者の8割近くが男性で、その大半が20代から40代です。これは、子どものころ、予防接種の対象が女子だけだったとか、学校での集団接種ではなかったため受けていなかったりして、抗体がない人が多いためです。風疹ウイルスを持つ男性から妊婦さんに感染することがあるので、気をつけてください。

82名の患者のうち、77名はワクチン接種をしてないか、わからない状態でした。

ワクチンでほとんど風疹は罹りません。お医者さんにご相談し、ワクチン接種をしてください。しかし、接種を受ければすぐに大丈夫、というわけではありません。接種から抗体ができるまでには2、3週間かかるとされ

ていますので、ご注意ください。

[横山 裕之] 沙流・千歳